

長い名

楠山正雄

青空文庫

ちよんきりのちよんさんのほんとうの名をだれも知りませんでした。何でも亡くなつたこの子のおかあさんが、この子の運がいいように何かいい名前をつけようと、三日三晩考えぬいて、病氣になつて、いよいよ目をつぶるといふときに、かすかな声で、

「ああ、やつと考えつきました。この子の名はちよん。」

といいかけたなり、もう口が利けなくなつてしまつたのです。そこでみんなはしかたがないので、「ちよん」きりで、名前が切れて無くなつてしまつたといふので、「ちよんきりのちよんさん」とあだ名を呼ぶようになりました。そのあだ名がほんとうの名前になつて、いつまでたつても、その子はちよんきりのちよんさんでした。

しばらくたつて、ちよんきりのちよんさんのおとうさんが、二度めのおかあさんをもりました。間もなくこのおかあさんにも子供が生まれて、ちよんきりのちよんさんにも弟が出来ました。するとある人がおかあさんに、子供に短い名前をつけると、その子の命は短いし、長い名前をつけるほど、その子の寿命は長いものだといつて聞かせました。

そこでおかあさんは、かわいい子に、せいぜい長い名前をつけてやりたいと考えて、とうとうつけもついたり、

「ちようにん、ちようにん、ちようじゆうろう、まんまる 入道、ひら入道、せい
たか入道、へいがのこ、いつちようぎりの、ちようぎりの、ちようのちようのちよう
ぎりの、あの山の、この山の、そのまた向こうのあの山越えて、この山越えて、桜は咲い
たか、まだ咲かぬ、花より団子でお茶上がれ、お茶がすんだら三遍回って煙草に庄助
。」

という、すてきもない長い名前をつけました。

二

兄弟はだんだん大きくなつて、よくけんかをしました。すると弟はにいさんにさん
ざん悪いいたずらをしては、逃げて行つて、遠くの方でまだからかつていました。

「ちよんきな、ちよんきな、ちよんちよん、きなきな。」

こういわれると、ちよんさんはくやしがつて、負けずに弟の名前を呼んで、からかい返

してやろうとしましたが、

「ちようにん、ちようにん、ちようじゅうろう、まんまる 入道、ひら 入道、せい
たか 入道、へいがのこ、いつちようぎりの、ちようぎりの。」

と早口^{はやぐち}にやっているうちに、舌^{した}がもつれて、かんしゃくばかり起^おこってきました。その間に弟^まの方はどこかへ逃^にげて行^まってしまいました。

ちよんさんのおとうさんはまた、ちよんさん、ちよんさんと、にいさんの方が名前^{なまえ}が呼^よびいいので、何^{なに}かにつけて、

「これをしろ、ちよんさん。あれをしろ、ちよんさん。」

と、ちよんさんばかりひどく使^{つか}いました。いたずらをして、

「これ、ちよんさん、ここへ来^こい。ごつん。」

とすぐやられますが、弟^{おとうとほう}の方は、「まんまる 入道、ひら 入道、せいたか 入道、へいがのこ、いつちようぎりの、ちようぎりの。」をやっているうちに、くたびれてしまつて、おとうさんも小言^{こごと}をいうのが、めんどくさくなりました。

おかあさんは、「やはりあの子に長^{なが}い名^なをつけて、いいことをした。」と思^{おも}いました。

三

ある日ちよんさんは、お友達ともだちといつしよに裏うらで遊あそんでいました。するうち、どうかしたはずみで、ちよんさんは井戸いどに落ちおちました。

「ちよんさんや、ちよんさんや。ちよんさんやい。」

みんなは口々くちぐちにこう名前なまえを呼よんで、繩なわを下おろしたり、はしごをかけたりにして、やっとちよんさんを助けたすけ出だしました。

おかあさんは、「やはり、短い名前なまえの子は運うんが悪わるいというのは、ほんとうだ。」と思おもつていました。

それから二三日にちたつて後のち、子供こどもたちはまた裏うらで遊あそんでいました。

ちよんさんの弟おとうとは、「ちよんさんの落ちおちたのは名前なまえが短みじかくつて、運うんが悪わるいからだ。おれなんかどんなことをしたつて落ちおちやしない。」といばりかえつて、わざと井戸いど側がわにぶら下がったり、つるべを引ひつぱつたりしているうちに、はずみでぽかんと井戸いどの中へ落ちおちてしまいました。大ぜいのお友達ともだちはびっくりして、ちよんさんのうちへ駆けかけつけて、

「大へんです。今いま、ちようにん、ちようにん、ちようにん、ちようじゅうろう、まんまる入にゅう道どう、ひ

ら入道、せいたか入道、へいがのこ、いつちようぎりの、ちようぎりの、ちようぎりの、ちようぎりの、あの山の、この山の、そのまた向こうのあの山越えて、この山越えて、桜が咲いて、お山のからすが団子ほしいとないた、ではない、花より団子でお茶上かれ、お茶がすんだら三遍回って煙草に庄助さんが、井戸にはまりました。」

と知らせました。

「それは大へんだ。」

とみんなで駆けつけるうちに、あんまり手間がとれたので、長い名の庄助さんは、とうとう水に溺れて死にました。

青空文庫情報

底本：「日本の諸国物語」講談社学術文庫、講談社

1983（昭和58）年4月10日第1刷発行

入力：鈴木厚司

校正：大久保ゆう

2003年8月2日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

長い名

楠山正雄

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>